# ふくしまの未来へ２０１４

『当たり前のように来る毎日が幸せだということを強く感じた。』

———ある中学生の素直な気持ち。

『震災直後、毎日桜のつぼみがふくらんでいく様子がつらかった。
普段なら待ち遠しい春を、あの時だけは受け入れられなかった。』

———卒業したばかりの教え子を津波で亡くした先生の言葉。

地震、津波、原発事故。
突然襲いかかった災害、さらには風評という困難を乗り越えるため、この３年、懸命にがんばってきたふくしまの皆さん、私は皆さんを心から誇りに思います。
ふくしまを支えてくださっている全国、そして世界の皆さん、本当にありがとうございます。

東日本大震災以降も、世界は自然災害の脅威にさらされています。
人間は、自然の中ではいかに無力かを感じさせられます。それでも、かけがえのない命、安全を守るため、最善を尽くしていかなければなりません。

エネルギーのあり方についても、震災後、様々な議論がなされています。１０年、30 年、さらにその先を見据え、地球全体で考えなければならない、そのような時が来ているのです。

私たちは、かつてない災害の教訓から、安全と地域のあり方を改めて考え、県内の原子力発電所すべての廃炉を求めてきました。海に浮かぶ風力発電「ふくしま未来」が象徴する、再生可能エネルギーを推進し、原子力に頼らない地域経済・社会の構築を、このふくしまから一層進めていきます。
さらに、ふくしまだからこそできる、医療などの最先端の研究を進め、世界に貢献したい、そう考えています。

今も、避難生活を送る多くの方々がいます。
双葉郡から避難されている方の言葉です。
『主人は避難してから一度も家に帰れずに他界しました。震災当日まで
普通に生活していたのに。亡くなる間際に、家族に初めて見せた涙の意味の
深さを考えると、様々なことから目をそらすわけにはいかないと思います。
避難解除になったら、家に連れて帰りたい。』

まもなく住めるようになる地域の方々、しばらくは戻ることができない地域の方々、新しい地で再出発を決意した方々、一人ひとりの思い、願いをしっかりと受け止め、力の限りを尽くしていきます。

昔からある豊かな自然、人の温かさ、つながり、文化、そして、震災をきっかけに生まれた出会い、これらすべてが、「ふるさと」です。
この何ものにも代えがたいふくしまの宝を、守り、育て、次の世代へと伝えていかなければなりません。
そして、ふくしまを「ふるさと」とする、すべての人が、誇りに思えるふくしまとなることこそ、真の復興です。

『友達や家族が住んでいて、自然豊かなこのふるさとが好きです。自分が
大人になったとき、みんなが笑顔で住める福島になっていてほしい。』
『私たちに元気をくれた方々のように、私たちも元気を与えたい。』

子供たちのこうしたまっすぐな気持ちは、ふくしまが歩む道を照らす光です。
ふくしまが目指す未来に向かって、皆さん、さらに前へと、一緒に進んでいきましょう。

２０１４年3月１１日　　福島県知事　佐藤　雄平